

山行報告

守門岳

1995年6月24～25日

参加／岩（毅）、藤田

24日 曇一時雨

岩さん宅を10時半に車で出発、京葉道で渋滞があったものの関越道は流れていて、小出I.C.を3時半ごろ降りた。と、出口に252号線会津方面（六十里越え）が土砂崩れのため通行不能との案内が出ている。当初は土曜日に御神楽岳に登り日曜に守門へ回る予定をしていたのだが、天候等のからみもあり守門だけにしたのが結果的に正解であった。御神楽から守門に回るにはこのルートしかなく、御神楽に行っていれば守門には登れなかつたのである。

小出インターを出てすぐのスーパーで食糧を買い出し、今夜のキャンプ地である二分に向かう。ここが保久礼小屋経由の登山口で、水場とベンチのある広場になっていて、キャンプをするのに適当な場所である。ただしトイレはない。早速テントを張り食事を作り、早々に眠りについた。

25日 晴れ

4時過ぎに起床。心配された天気だったが、バカツキの涼。テントを撤収し5時半に出発、沢沿いの道を保久礼に向かう。約30分で保久礼の小屋に着く。小屋のすぐ前には水場がありのどを潤すことができる。ここから道は尾根筋に変わるが、ブッシュに阻まれ展望はきかない。ところどころに咲いている雪椿やイワカガミなどの花が、せめてもの慰めである。岩さんはこのルートを3月にスキーで登っているが、ブッシュはほとんど埋もれていて、快適な斜面だったとのこと。あらためて無雪期に積雪期の状況を推測することの難しさを思い知らされる。標高985mの水場を過ぎると、まもなくキビタキ小屋がある。この小屋があることを岩さんはご存じなく、積雪期には埋もれてしまっているようである。もっとも1階建てなので、積雪期には使用不能であろう。

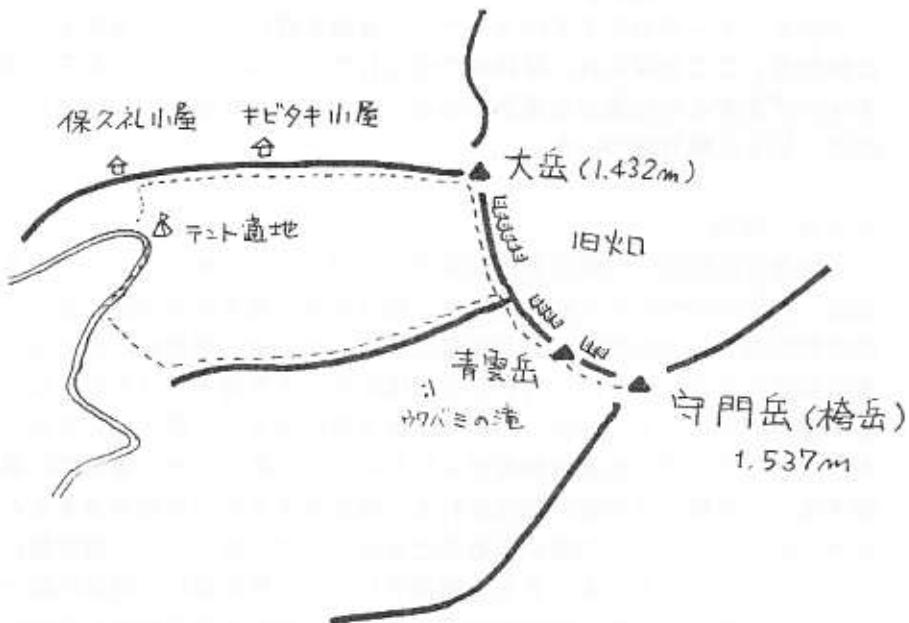
大岳の手前でようやく低草木の植生になり、初めて展望がきく場所に出た。南にはまだ多くの雪を抱いた越後三山がアルペン的な山容を、そしてその左には特徴的な双耳峰の爐ヶ岳が見える。ひと登りで大岳の山頂に着く。山頂の少し先に行ったところから、主峰の袴岳が姿を現した。大岳から袴岳にかけての稜線の東面は昔の爆裂火口で、冬場は大きく雪庇が張り出しているらしい。確かに6月下旬でも残雪が豊富である。この稜線をたどり二口からの道が合流すると、登山者の数が増えてくる。中にはネマガリタケを探しながら登ってくる人もいる。シラネアオイがちらほら彩りを添えてくれる縦走路をさらに進み、気持ちの良い草原状の青雲岳を過ぎひと登りでようやく守門の主峰(1,537m)に到着。浅草岳や末丈も顔を出してくれた。頂上は大原からの登山者もあり、思ひがけない人混みでビックリ。記念撮影もほどほどに青雲に引き返して休憩をとる。

後は二口に向けて下るだけ。やはり展望のきかない尾根道をズンズン下る。途中ウワバミの滝が見える。なかなか形の良い滝だ。さらに下ってようやく二口の登山口に到着。駐車場は長岡や新潟ナンバーの車でいっぱいだ。地元では人気の山のようだが、さすがに他府県ナンバーはほとんど無い。車道を戻り返す事約20分で車に戻った。

帰路にはS L ホテルのある守門温泉で汗を流した。

二分キャンプ地5:30→保久礼小屋6:00→8:05大岳8:20→10:20守門岳10:30→青雲岳→二口登山口13:10→二分キャンプ地13:30

〈概念図〉



〈文責〉 藤田